

～子どもに関わるすべての人へ～  
家庭教育ニュースレター

# 家族の絆

2014年秋 = Vol.47 =

## Contents .....

- 前教育委員長が語る「地域で子育て」  
これからの地域を担う子どもたちへの支援
- どうする？子どものスマホ スマートフォン座談会
- 5つの実践目標リレーコラム  
「生きることは食べること。食べることは生きること。」
- 公演案内ーちめいど人権学習コンサートー



発行/西宮市教育委員会 問合せ先/社会教育課 TEL0798-35-3868



## 前教育委員長が語る「地域で子育て」

# これからの 地域を担う 子どもたちへの支援

家庭は、子どもの健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点です。しかし、都市化や核家族化、少子化などを背景として、地域とのつながりが希薄になり、親が身近な人から子育てを学んだり、助け合う機会が減っています。その結果、悩みや不安を抱え、孤立する家庭が増えてきたことから、今、社会全体で子育てや家庭教育を支える必要性が高まっています。そこで、「前教育委員長 井ノ元 由紀子」さんに、地域のつながりや地域社会全体で子どもの育ちを支えることの大切さについてお話をいただきました。

今、子どもの心の成長を支える生活の基盤である「人と人がつながる環境」は、情報技術やデジタル機器の進歩により、大きな影響を受けています。仮想空間での遊びにより、子ども同士の直接的な関わりは減少し、個人主義的な考え方の広がりによって拍車をかけているように思います。このような中、望ましい人間関係を構築し、協力して物事に取り組む姿勢を育てていくためには、集団の持つ力を見直し、子ども同士が関わり合い、学び合う機会を積極的に作り上げていかなければなりません。

それぞれの家庭にはそれぞれの文化があり、都市化した社会において、子育てに対する価値観も多様化し、子育てに不安を抱える家庭（保護者）も多くなってきている現状から、社会全体で家庭を支える必要性が高まっています。私の居住する地域の自治会においても、平成25年度から自治会独自での子育てサロンが開催されるようになりました。月1回（第1木曜日）の開催です。一人っ子世帯が多く、初めて参加する子どもは、どうしても人見知りをし、泣いている時間の方が多のですが、回を重ねるうちに、知らない子ども同士でも楽しい雰囲気生まれます。おもちゃの取り合いからケンカにもなりますが、ゆっくりと目を見ながら手を取って話をすると納得し、また仲良く遊べるようになります。話すことが十分でない子どもでも理解はできます。

そのような様子を見ている保護者たちは、家庭では気づくことのできなかつたことが、色々な場面に出会

うことで気づかされることが多いようです。そして、保護者同士のコミュニケーションも生まれ、それぞれの家庭での様子を話し合うようになり、その中から大切なものを学び合っています。このことが親子にとって大切なものではないでしょうか。

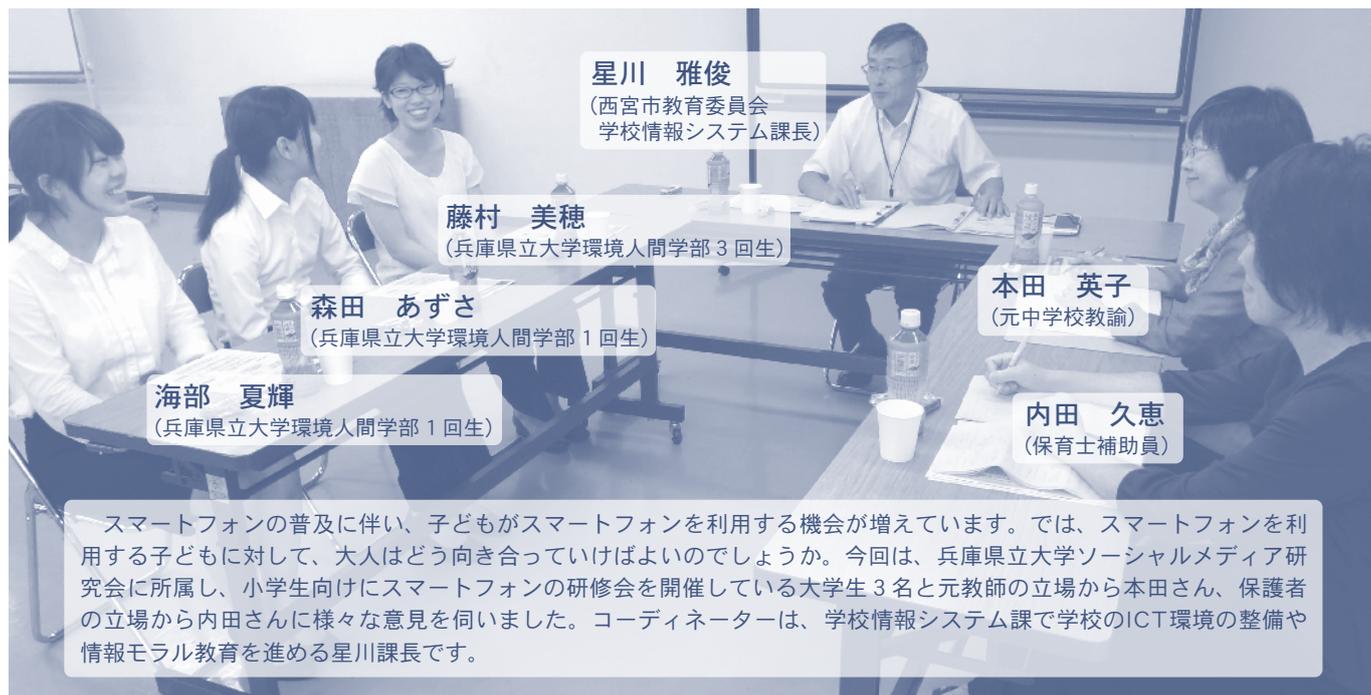
地域の教育力も、行政のあらゆる施策の中で力強いものとなり、地域独自の事業の中で地域の子どもは地域で育てようという思いが広がってきています。各団体の取組みが、今までは点であったものが線となり、面になろうとしています。地域社会をこれから担っていく子どもたちを温かく見守り、支援することが今の私たちの役割ではないでしょうか。そして、これらの努力が悩みや不安を持つ家庭（保護者）に少しずつ伝わり、自分の子どもが大切であると同時に、まわりの子どもも大切であり、他の子どもを守ることで自分の子どもも育てていくことに気づいてほしいと思います。

## 前西宮市教育委員長 井ノ元 由紀子

武庫川女子大学文学部教育学科を卒業後、西宮市立小学校教諭、西宮市PTA協議会会長、民生委員・児童委員、地区青少年愛護協議会会長などを歴任。平成14年度より西宮市教育委員（3期）、平成23年度より教育委員長。（平成26年9月退任。）現在、コミュニティ協会代議員、西宮市国際交流協会理事なども務める。



# どうする？ 子どものスマホ —スマホ座談会—



## 時代はスマホ！

(敬称略)

星川 大学生の皆さんがスマートフォン（以下、スマホ）を使い始めたきっかけを教えてください。

海部 高校生の時、スマホを持っている生徒がクラスの大半でしたので、その頃からスマホが欲しいと思い始めました。そして、大学入学後、すぐにスマホを購入しました。

森田 私が通っていた高校でも、9割くらいの生徒がスマホを持っていました。<sup>※1</sup>ガラケーを持っていると馬鹿にされる風潮があったため、当初ガラケーを持っていた私も恥ずかしくなり、途中でスマホに変えました。

星川 保護者の立場から、内田さんはいつ頃、お子さんにスマホを持たせましたか。

内田 大学2回生の息子には、大学入学時にスマホを持たせました。一方、高校3年生の娘には、高校入学時に、連絡を取るためにスマホを持たせました。娘は持つ前に決めた約束をきちんと守っていますが、当初、連絡のために買ったスマホであるにも関わらず、使用時間が長いことが少し気になっています。

星川 元教師である本田さんが学校現場におられた時は、ちょうど携帯電話が流行り出した頃でしたよね。

本田 私が現職の時は、ガラケーの時代でした。当時問題となっていたのは、「プロフ」です。子どもが自分のプロフィールをネットに書き込み、写真を掲載し、それが流出するというものでした。

星川 今は、子どもの間でもスマホが急速に広まっています。どんなことにスマホを使っていますか。

藤村 ラインはもちろんのこと、カメラ機能も便利です。また、私はパソコンのメールがスマホを通して見えるので、重宝しています。

## 大丈夫？ スマホの使いすぎ

星川 スマホには便利な面がある一方で、マイナスの面もあります。最近の新聞には、スマホをたくさん使っている子どもは成績が芳しくないという結果が出ていました。

本田 予想通りの結果だという印象です。これまで、家庭学習や自然体験、読書などに使われていた時間が、今はスマホの使用に充てられるようになったのでしょうか。1日24時間しかない時間を何にどのような優先順位で使うかということを親子で考えてもらいたいです。

内田 スマホを持っていると、どうしても個々の世界に入ってしまいがちです。家族と同じ部屋にいるにも関わらず、会話がなくなってしまうんです。

森田 家族との会話は大切ですが、<sup>※2</sup>ラインなどをしていると、食事の時もスマホが手放せないことが時々ありました。

確かに行儀が悪いと思いますが、すぐに返事をしたい時もあるのです。



## アナログだって 捨てたもんじゃない

星川 時々スマホが手放せないことはあっても、ある程度人格が形成された段階でスマホに出会っている皆さんは、比較的上手くスマホと付き合っている印象を受けます。ところが、これから大きくなる子どもは「デジタルネイティブ」と言って、生まれながらにしてデジタル機器に触れる世代です。これからの子どもがスマホと付き合い方で伝えておきたいことはありますか。

海部 子どもはスマホをどうしても使いたい時があると思います。その時、大人に頭ごなしに怒られると、子どもは反発し、余計使いたくなるものです。大人は子どもの気持ちを理解した上で、スマホの上手な使い方を子ども自身に自分の力で気づかせるように導くことが大切ではないでしょうか。

藤村 小さい頃からスマホを使っていると、例えば紙をめくる感覚がなくなると言われています。本



屋や図書館で読みたい本を探し、紙をめくりながら読むというアナログ的なおもしろさを子どもに伝えることが大事ではないでしょうか。また、スマホからの情報に対して、全ての情報を鵜呑みにせず、疑うセンスを身につけておく必要もあると思います。

星川 今の時代、情報モラルを小学生から段階的に教えることは大切なことです。しかし、あまり小さな頃からデジタル機器を与えることに疑問を感じることもあります。また、情報の危機管理能力はすぐに培えるものではありません。小さい子どもがそういった力を身につけられる教育ができたらと思います。内田さんは子どものスマホ利用について、保護者はどう向き合うべきだと思いますか。

内田 どんなに便利な時代になってもアナログ的なものの楽しさは、保護者をはじめ私たち大人が伝えていかなければいけません。伝えることには労を要しますが、それを惜しまずやっていくべきです。

本田 私は今、子どもに読み聞かせもしています。子どもの反応を見ていると、時々発する言葉が何に対しても「やばい」ばかりの子どもがいることに戸惑います。ネット言語だけで育った子どもは、どんどん言葉が痩せ、世界が閉ざされていくことに大人は気づかなければいけないのではと感じます。

## スマホ時代だからこそ、 こんな家族、社会でありたい

星川 また、スマホの問題は人権課題とも密接につながっています。本田さんは、人権に関する講演会の講師も務めておられますが、人権という視点から何かありますか。



本田 人権の基本は、3つあります。1つ目が、1人ひとり違うことへの理解。2つ目が、その違いを理解するための想像力。そして3つ目が、正しく知ることです。これらは暮らしの質を高めるためにも必要な力だと思います。同様のことが、スマホに関しても言えるのではないのでしょうか。正しくスマホの仕組みを知った上で使える力をつけることや、相手を思いやる姿勢を身につけることが大切だと思います。スマホを正しく使いこなせる子どもを育てる意味でも、子どもの育ちを支える環境として、基本的な生活習慣や文化的な環境整備の大切さを再確認しなければならと思います。また、子どもがトラブルにあった時に、最後の砦としての家庭、大人社会であるためにも、日常的な声かけをはじめコミュニケーションの豊かな家庭や社会であってほしいですね。

星川 家族との時間の大切さやスマホが人権課題とも密接に絡んでいるという視点は、



大人にとって欠かせないものです。スマホは様々な問題がありますが、便利なものとして子どもに上手な使い方を教えるとともに、やはり顔を合わせてのコミュニケーションの大切さも伝えていきたいですね。



### 用語解説

#### ※1【ガラケー】

「ガラパゴス携帯」の略。スマホが登場する前の日本独自に進化をとげた携帯電話端末の総称。

#### ※2【ライン】

無料で音声通話やメッセージ交換ができるサービス。日本国内の利用者は、約5,000万人にのぼる。

思いやりのある西宮っ子を育てる

## 5つの実践目標 リレーコラム

平成23年に西宮市家庭教育振興市民会議が新たに提唱した家庭教育の「5つの実践目標」をテーマとして、家庭教育振興市民会議の委員や家庭教育関係者などに自身の体験や思いを投稿していただくリレーコラム。今号は、5つの実践目標の中から「習慣づけよう 早寝 早起き 朝ごはん」をテーマに、食卓を囲むことの大切さを「NPO法人 つどい場さくらちゃん 理事長 丸尾 多重子」さんに語っていただきました。

## 生きることは食べること。 食べることは生きること。

この数十年の日本人の「食」が危ないと思っています。街には飲食店があふれ、デパ地下、コンビニにはおかずがあふれ、家庭に包丁・まな板が無くても食べていきます。家族がいても時間はバラバラで個食。

そもそも、「おうちごはん」は、食べてくれる家族の顔を浮かべながら食材を仕入れ、調理し、食卓に並べるものですね。家族の体調を思い、バランスの良いおかずを並べ（モチ、お財布と相談しつつ）、お返しは家族の“笑顔”と“健康”。スマホにパソコンは「便利」なキカイ…上手く使って、コミュニケーションは“ひと”から。その要は「家庭の食卓」からだと思います。11年前から西宮で続けさせていただいている「つどい場さくらちゃん」は、肩書、立場を取っ払った様々なひとたちの〈まじくる〉「場」であり、その要もやっぱり「食事」なんです。

お茶だけでは「会議」になるところ、「ごはん」を食

べていると、「本音」が語られ、感情の吐露もできます。毎日は無理でも、週に何回かは「家族」がいっしょに「食卓」を囲み語り合い、理解し合うことが大切ではないでしょうか？「語る力」「考える力」「生きる智慧」は「食卓」から。「家族」になったのは「奇跡」ですね。その「家族」が同じ食卓を囲める時間も限られています。「おうちごはん」は必ず、「こころ」と「からだ」に残ります。

「食欲の秋」「食材の秋」さあ、今夜の「おうちごはん」は何ですか？

### NPO法人つどい場さくらちゃん 理事長 丸尾 多重子

阪神西宮駅近くで「つどい場さくらちゃん」をはじめ、11年を迎える。「つどい場さくらちゃん」は、超高齢化社会・少子化の時代に、縦割ではなく、いろんな人たちが〈まじくる〉「場」であり、介護者・介護職・医療者・行政・社協・議員・大学教授・学生・地域活動者・子ども・子育て中のママなど、毎日様々な人が集っている。美味しいものがあり、おしゃべりがあり、笑いがあり、泣けるところであり、そして何より出会いがある。そんな「つどい場」が地域のあちこちでできるよう、活動中。愛称は「まるちゃん」。



## 公演案内

### ちめいど人権学習コンサート

西宮市家庭教育振興市民会議は、毎年人権週間にあわせて開催される「にしのみや人権フォーラム～ふれあいの広場～」にて公演会を企画しています。

今年度のテーマは「歌で伝える 生きることの素晴らしさ 命の大切さ」です。公演をしてくださるのは「兄弟メッセージデュオ ちめいど」さん。この度、ちめいどさんより公演に向けて皆様にメッセージをいただきました。

- 日時 平成26年12月10日(水) 10:00~11:30
- 場所 西宮市立中央公民館 講堂(プレラにしのみや6階)
- 定員 80名(先着順)
- 申込み 11月10日(月) 午前9時より社会教育課へ  
お電話(0798-35-3868)でお申込みください。

#### 兄弟メッセージデュオ ちめいど

伊丹市生まれ丹波篠山育ちの兄弟アコースティックユニット。2006年、フジテレビめざましどようび主題歌全国公募企画での優勝により、Warner music japanよりメジャーデビュー。生きることの素晴らしさ、生命の大切さ、人生の応援歌を歌うそのスタイル・メッセージ性から、教育機関の出演依頼も多く、人権学習としての講演、多分野にわたるテーマソング作成、また、教材CDへの楽曲提供を行うなど、教育分野からの期待も熱い。ひとりひとりとの出逢い、つながりを大切に、一現在10,000人ライブを目標に活動中。



To.みなさま

人権学習コンサートでは、みんなの夢を肯定し、全員がありのままの存在を認め合うことで、「将来こうなりたい」と描いている夢を、叶える自分をつくれるんだ！ということをお届けたいです。

自分もOK、相手もOK。これが夢を叶える条件だと僕らは信じています。人の夢、幸せを否定する人には夢は叶えられません。叶えても独りよがりです。

たとえどんな病気や障害などハンデを持つ人も、また勉強ができなかったり、運動が不得意などにかかわらず、全員がひとり残らず夢をもっていることを理解し、自分以外の人の人生に興味を持っていくこと。

今は夢がない人でも、必ず見つかると思っていていく。

医者になりたいとか、スポーツ選手になりたい歌手になりたいなど、華やかな将来ばかりが夢ではなく、人として「愛する人がいる、愛されていると感じる」こと自体が幸せな人生なのだと思います。

人生の中で愛情を感じる出逢いがたくさんあります。その素晴らしい出逢いは自分が大事にできるかどうかで、掴んでいけるチャンスだと思います。

このメッセージを自作の歌で訴えていきたいと思っています。

From.ちめいど

